

農林 畜産業

JETRO



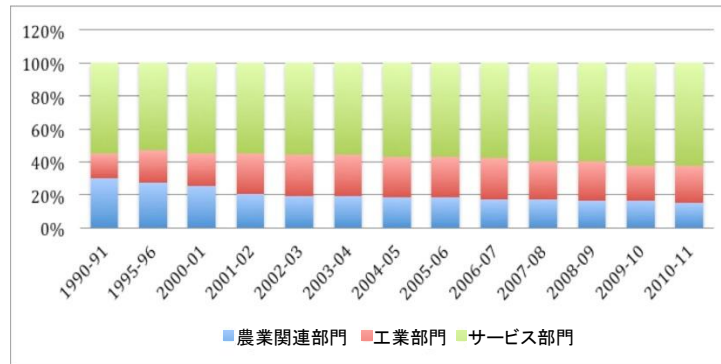
インド チェンナイ

BOP層実態調査レポート

インドの農業生産高は世界第2位で、農業部門(林業、畜産業、漁業などを含む)は2010-11年度でGDPの14.5%近くを占める。GDPに対する農業の寄与度は1990-91年度の30%から2011-12年度の15%へと低下してきている。

国民は、所得の半分を食費に支出し、また半数は農業で生活しているため、収入源としても食糧安全保障の面でも、農業および関連部門の成果は重要な意味を持っている。

GDPの部門別内訳



出所: インド統計局

JETRO



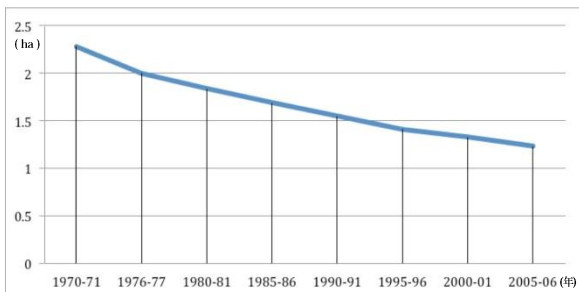
■農業人口

農業部門は、GDPへの寄与という点では大きく減少しているものの、雇用面における農業の比率はあまり減少せず、依然として労働人口の約半分が農業部門で働いている。しかしながら、農村部では非農業活動による所得の割合が着実に上がってきている。

■耕作面積

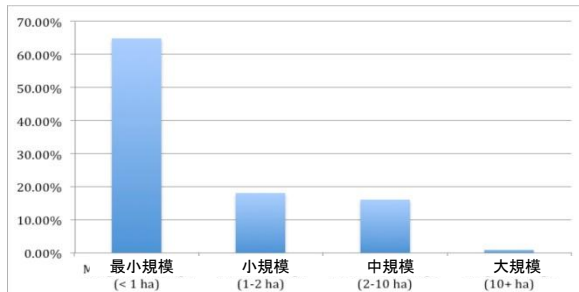
耕作地の平均面積は、1970-71年の2.28 haから2005-06年の1.23 haへと減少している。2005-06年度の農業統計によれば、最少耕作地(1 ha未満)の割合は1995-96年度の61.6%から2005-06年度には64.8%へと上昇した。その次に割合が高いのは小規模(1~2 ha)の約18%、以下、中規模(2~10 ha)の約16%、大規模(10 ha以上)の1%未満の順となっている。

平均耕作面積



出所：農業省農業協同局

耕作の規模

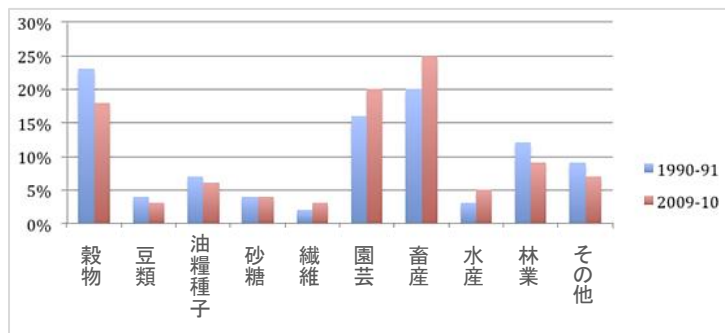


出所：農業省農業協同局

■主要作物

インドは各種果物や野菜、牛乳、香辛料、肉、ジュート等繊維作物の最大の生産国である。また、小麦と米は第2位である。生産量の伸びとは別に、面積当たりの生産量もこの40~60年間で伸びている。

図4 農業生産物の割合

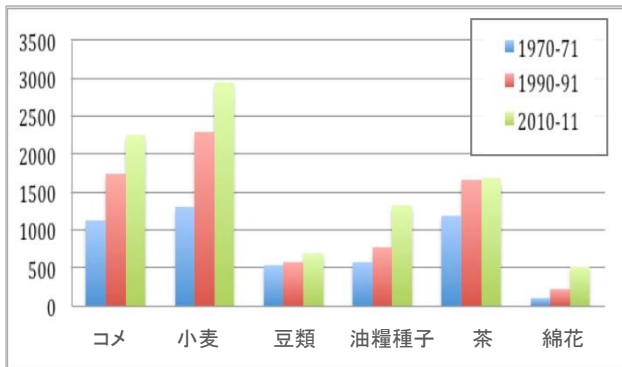


出所：インド統計局



下図は主要作物について生産性を比較したものである。インフラ(道路、電力等)の整備、農業知識の習得、各種改革などにより生産性が向上し、40年間で40%から500%もの成長をもたらした。

農業生産性—1970年から2010年までの平均生産量(縦軸の単位:kg/ha)



出所:FAO統計

農産品	生産額(2009年、10億ドル)	平均生産量(トン/ha)
米	38.42	3.3
牛乳(水牛)	24.86	1.7
牛乳	17.13	0.31
小麦	12.14	0.15
マンゴ	9.00	0.6
サトウキビ	8.92	0.03
バナナ	8.38	0.28
綿花	8.13	1.43
生鮮野菜	5.97	0.19
ポテト	5.67	0.15
トマト	4.59	0.37
肉類	4.00	2.69

■農法

各地方はそれぞれの農業に適した固有の土壌・気候条件を有している。例えば、東部の多くの地域は年間降水量が500 mm未満であるため、農業は乾燥に耐える作物に限定され、かつ農家も単一作物の栽培に限っている。一方で、西部では灌漑をしなくても降水量が年1,000~2,000 mmもあるので、二毛作が可能である。

主要3作物は次のとおり。

- ・カリフ作物 米、トウモロコシ、雑穀など、モンスーンの始まりから冬の初めの6月~11月に栽培する。
- ・ラビ作物 冬の初めに種を蒔き初夏までの10月~4月に栽培される小麦、大麦、油糧種子など。
- ・ザイド作物 夏の短期間に栽培するもので、スイカやキュウリなど。

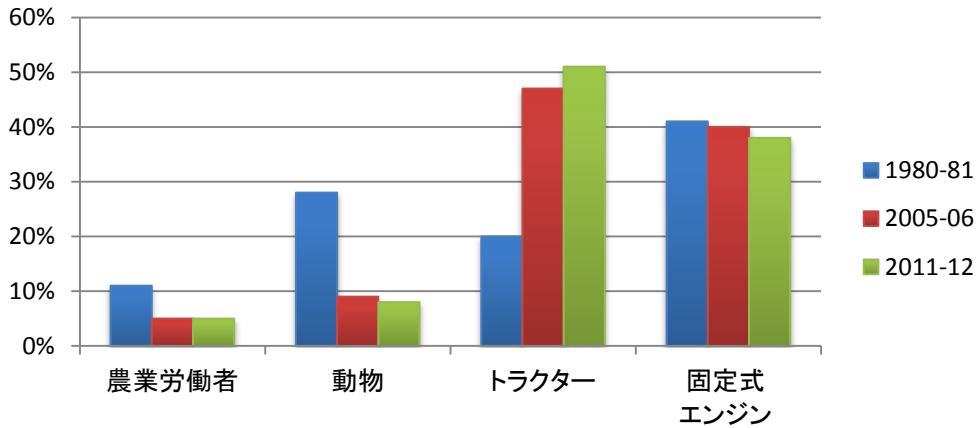
■機械化

農作業はこれまで人と動物の力で行われてきたが年々減少してきている。この20年間で農機の利用が増加し、トラクターや耕運機などが動力源として大きな比率を占めるようになった。機械化については官民とも推進しており、機械化率は2020年までに70%に達すると予想されている。主要農業機械の農村部への普及には、金融部門も大きな役割を果たしている。

2010年までの10年間に新しい機器の利用が大幅に増加したが、機械化の程度は地域によって差がみられる。例えば、パンジャブ、ハリヤナ、ウッタル・プラデシュといった北部の州は、東北部の州と比べて機械化のスピードが速く、西部や南部の州は灌漑面積の増加と農家の意識の向上に伴い増加している。



動力源



出所: インドの農業機械化現状報告書

■訪問結果



Govindraj 夫妻

コインパートル近郊 Kethanur 村

Govindraj夫妻は農家である。主にトウモロコシ、ビート、苦瓜を作っている。数年前に人力からトラクターや点滴灌漑といった機械化農業に転換した。生産性が向上して利益が増えた。収穫物は市場に直接搬入している。



Balasubramaniam さん

コインパートル近郊 Kethanur 村

Balasubramaniamさんは今も伝統的な農法に拠っている農家である。主な作物はココナツ、果物、苦瓜である。近代農法を採用していない理由として、彼女は普及指導の不足を挙げた。近代農法に挑戦する意欲は高い。収穫物は市場に直接搬入している。

JETRO

【免責事項】本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。